



校長室からの風 ～心は開かれた窓でありたい～

柵原中学校 西村 睦美

平成22年7月12日発行 No.9



幹高く 大緑陰を 支えたり (松本たかし句)

みちのく角館の武家屋敷通りを歩いてきました。ゆったりとした幅でまっすぐに続く通りは、まさに緑のトンネル。頭上高く緑陰が覆い、木の葉の揺れにさわやかな風の渡りを感じました。江戸時代から戦災に遭うことなく守られてきた景観。大樹の持つ生命力と、何百年も続いてきた日々の営みを思うとき、井戸の片隅や大露の葉陰、この家並みに生きてきた人々の密やかな息吹を感じました。「連綿と」ということばがありますが、この町並みにはそのことばがぴったりでした。また、秋田に向かう飛行機の窓から眼下に広がった雄大な鳥海山の雪渓にはことばもありませんでした。奥羽山脈に抱かれた秋田の地で、胸一杯、新鮮な空気を吸って来ました。

校内  
研修

## 広い視野で学んだ成果をやなはらに

福井に学ぶ

6月25日  
(金)

野津先生と小野先生が、数学と国語（コアティーチャー担当）の授業参観と、研究協議に参加してきました。当日、福井市立大東中学校では、所管の教育委員会指導主事指導日でした。そのようなお忙しい日程にもかかわらず、心温まる対応をしていただいたとのこと。秋田も然りでしたが、私達も「かくありがたい」と強く思いました。

みちのく秋田に学ぶ  
みちのく秋田に学ぶ

7月2日  
(金)

午前の部は秋田県大仙市立中仙小学校で、枝川校長先生の概要説明と2時間の授業参観、その後、研究主任の佐藤先生のお話を伺いました。「6月に40周年記念の授業を済ませて、ようやく授業に本腰を入れ始めたところです。」という校長先生のお話でしたが、児童たちは実に集中した授業を展開していました。給食をいただいた後に、校長室をノックする音。5年生の女子が校長先生を訪ねてきました。手には白い紙が…。これが校長先生のお話しになっていた詩の暗唱かと思い、今野教頭先生にお伝えした後、その子に暗唱を聞かせてもらいました。「論語」の一節をよどみなく読み上げました。朝の出会いから、終始、日常の学校生活を一緒にさせていただいたという言い方がぴったりの研修視察でした。それだけに、圧倒されることがたくさんありました。

午後の部は、中仙中学校で5校時の授業参観の後、教務主任・研究主任の先生のお話を伺いました。「校長先生に言われるからではなく、子どもたちに力をつけてやるためにぼくたちができることは何か、ということをもいつも思っています。」「小学校がきちんとつけてくれた習慣やしつけを壊してはいけないと、一生懸命、生徒たちと取り組んでいます。」ということばが印象的でした。

